

青山学院大学 教育人間科学部 心理学科

教育人間科学部には、教育学科と心理学科があり、2学科で相互に科目履修が可能で、「人間」理解を深め、科学的・総合的に学びます。現代の人間が直面する、様々な問題解決に取り組む行動力と、自己教育力を身に付けます。



■大学生
鬼塚めいさん



■先生
重野純先生



■卒業生
古座みち子さん

CONTENTS

- プロフィール
- 大学生活について
- 就職活動、仕事について
- 5年後に向けて
- 高校生へのアドバイス

●プロフィール

青山学院大学教育人間科学部の特長を教えてください。



■先生

青山学院大学の教育人間科学部では、問題の解決に向けて行動できる自己教育力のある人材を育てることを掲げています。問題の解決に必要なのは、理論的な知と実践的な知。その2つをバランス良く身に付けられるよう、履修プログラムが整備されています。1年目は、青山学院大学の教育システムの大きな特長である全学共通の教養教育システムの「青山スタンダード科目」を中心に、その後の専門的な学び

の基礎となる様々な授業を受講します。青山スタンダード科目は、学部・学科の枠を越えて、全学生が履修し、教養と技能を身に付けます。2年生からは、それぞれの学生がその後の研究を見据えて、徐々に専門的な講義を受講することとなります。

教育人間科学部には、教育学科と心理学科があります。教育学科では、教育の思想や歴史、制度を始め、乳幼児から生涯教育まで人間の一生にかかわる教育について幅広く学ぶことができます。また、心理学科では、心の問題へのサポート、認知機能や人間の発達の解明、人間関係の探究など、あらゆる心理学の分野を網羅しています。それぞれ独自のカリキュラムを組んでいますので、同じ学部と

いっても学科が違えば、授業も全て違います。共通しているのは、教育学・心理学を「臨床」「発達」「情報」「身体」の領域について、人間の多様な側面を総合的に学びながら専門知識を習得することができるということです。

心理学科の特長について教えてください。



■先生

教育人間科学部は、2009年に誕生した学部です。しかし、青山学院大学はそれ以前から心理学を学べるコースを設けていました。2001年に文学部教育学科心理学専修コースを改組して文学部心理学科とした際の学科の内容が、現在の教育人間科学部心理学科のベースとなっています。

心理学科の特長は、なんといっても多彩な科目が

開講されていることです。大学の「心理系学部」で一般的に行われている内容は、ほぼ網羅しています。日本の大学でもかなり充実した科目数を誇っていると言えます。「認知」「発達」「社会」「臨床」の専門4領域を、興味や関心に即して、より深く探究しています。「認知」の領域では、認知心理学、知覚心理学、認知科学概論、音楽心理学などを学ぶことができます。「臨床」の領域であれば、学校心理学、臨床心理学、心理療法、家族心理学、障がい児・者の心理、相談心理学、精神分析学などを学ぶことができます。「発達」の領域では発達心理学、生涯発達心理学などを学ぶことができます。「社会」の領域では、社会心理学、広告心理学、産業心理学、ノンバーバル・コミュニケーションなどを学ぶことができます。さらに、心理学基礎として心理学概論、心理学基礎演習、心理統計学、心理学実験プログラミングなどや、思考力を鍛えるための哲学的認識論、心の哲学など、関連項目も設置されています。また神経心理学、脳生理学、心身医学なども開講しています。このほかにももちろん、たくさんの科目を受講することができます。

科目が多いと言うことは、それだけ細分化されているということです。つまり、少人数のクラスが多くなるのです。ゼミなら10～20人程度、講義や演習によっては数名というクラスもあります。それほど教授や学生同士の距離が近いので、各クラスでは活発に議論を交わしながら、専門知識を学び、研究する環境が整っています。

■大学生

青山学院大学は全国的にも知名度が高く、規模の大きな私立大学というイメージだったので、入学してから心理学科のアットホームなイメージに驚きました。いまでは「勉強するにはとても良い環境だな」と感謝しているくらいです。

■卒業生

青学の学生数は約1.8万人ですが、心理学科は同級生の顔と名前が一致しますし、先生ともとても距離が近く、コミュニケーションがとりやすいです。

■先生

大学の多くの学部の専門分野は、高校で学んだことにつながる専門であるケースがほとんどです。理系は特にそうです。文系でも経済学や法学と、一見して初めて出会う学問のような気がしますが、数学や社会につながる学問です。一方で心理学は、高校には授業がない新しい学問です。文系学部に分類されますが、必要とされる基礎知識には数学的な内容も多分に含まれます。

■大学生

思った以上に数学の要素が多くて、正直ビックリしましたし、苦戦しました（苦笑）。

■卒業生

私もです（笑）。統計は必須となるので、高校の時に学んでおけば良かったなと思いました。

■先生

心理学自体が新しい学問であり、文系の枠を越えて理系の知識も必要とされるので、多くの学生は大学で理系の学びもスタートさせるのです。

教育人間科学部心理学科を卒業して取得できる資格などはありますか？

■先生

指定科目を修了することで、卒業後に取得可能な資格としては「認定心理士」があります。心理学関係以外には「司書」「社会教育主事」「学芸員」が取得可能です。また、心理学科を卒業した後、本学大学院心理学専攻臨床心理学コースの博士前期課程を修了すれば、「臨床心理士」の受験資格を得ることができます。昨年「公認心理師法」という法律が国会を通りました。実際に制度が始まるのは少し先になりますが、将来は「公認心理師」という国家試験の受験資格を取得できるよう対応する予定です。

重野先生の研究について教えてください。

■先生

認知心理学の領域の中で、「話しことばの知覚」や「音楽心理学」を研究しています。音楽心理学は、音楽と私たち人間との関わり合いを研究する学問です。学生たちに協力してもらって最近行った実験では、初対面の異性と話す際にBGMをかけた場合とかけない場合で、相手の印象がどのように変わるかという実験があります。好きな曲のBGMをかけると、かけない場合と比較して相手への好感度が増すという結果が得られました。これは音楽、つまり聴覚からの刺激が人の心理に影響していることを表しています。



そのほかにも、知らない言語を感情を込めないで話してもらった場合と、感情を込めて話してもらった場合、聞き手は相手の感情をどのように読み取るかという実験や、絶対音感や音痴についても研究しています。

このように、ことばや音楽などが人の心理や人間関係にどのような影響を与えるか、ということの研究しているわけです。もちろん話す言語や文化によって受ける影響は変わってくるでしょう。しかし傾向が分かれば、いろいろな分野に応用することができます。例えば、「レストランで食事を美味しく感じさせたり、楽しく演出できる音楽にはどんな特長があるか」ということが分かってくれば、お店が顧客満足度向上のための方策にすることができます。

私のゼミではことばや音楽をテーマに様々な研究を、学生達が自分の興味・関心にしながら行っています。2人の卒業研究も、とても面白いものでしたね。

お2人の入学の動機と音楽心理学を研究することになったきっかけについて教えてください。

■卒業生

中学時代に『心理学入門』という本を読んで、心理学に興味を持ちました。音楽も好きで、部活でも音楽に関わってきたので、高校生になってすぐ「音楽をテーマに心理学を学びたい」と大学を調べ始めました。青山学院大学の教育人間科学部を選んだのは、心理学に興味を持つきっかけとなった本が、重野先生の著書だったことが理由です。音楽の心理実験がしたい、という思いで入学しました。

■大学生

私は高校生の時に心理学に興味を持って、大学で専門的に学びたいと思うようになりました。大学は東京でと考えていたこともあり、青山学院大学の教育人間科学部を選びました。入学当初は臨床心理学に最も興味を持っていたのですが、心理学の基礎を学ぶ中で重野先生の実験の被験者としてお手伝いする機会があり、先生の音楽心理学に惹かれるようになったんです。3年生からのゼミを決める前に研究室訪問をするのですが、そこで重野先生からお話を聞き、ますます「面白そうだな」と思いました。実験をして、それを論文に落とし込むというゼミの内容にも興味を持ちました。

お2人はどのような卒業研究をされたのですか？

■大学生

私は映画がとても好きで、映画に関する内容をテーマに選びました。映画を見るタイプに字幕派と吹替派というのがあります。字幕版では、本来の俳優の演技を生の声で聞きます。ただし、字幕の印象が感想を左右することがあります。一方、吹替版は、俳優の顔を見て、アフレコをした声優さんの演技を聞きます。本来の作品にはなかった、声優さんの声質や演技によって、作品



の感想が左右されることになります。そこで字幕版と吹替版は、観る人の心理にどのような違いをもたらすのか、ということを調べたのです。友人や知り合い45人くらいに協力してもらって、海外映画2本を用いチャプターを抜粋したものを、字幕版、吹替版のいずれかに分かれて見てもらい、理解や共感などの回答を数値化しデータ分析する内容にしました。字幕版も吹替版もあまり感想に違いが見られなかったのは残念ですが、自分で実験を組み立て、仮説を立てて実施し、結果をまとめるという作業は楽しかったです。そこから様々な要素をもとに、心理への影響を考察するというプロセスを経験したことは、卒業後に社会に出て仕事をする上で活かせると思います。

■卒業生

私は入学の動機でもお話したように、音楽がとても好きです。そこで、音楽ゲームを題材に実験を行いました。音楽によってアイコンが移動してきて、タイミングを合わせてボタンを押すと、そのタイミングの良し悪しで得点が入るとというのが音楽ゲームの一般的なルールです。私は音楽と画面を移動するアイコンのタイミングを少しずらし、聴覚で感じる音楽と視覚で感じているアイコンの、どちらがより「ボタンを押す」という行動に影響を与えているのかということを実験しました。ゲームのプログラミングを自分で組み、音楽も数種類用意し、いろいろな人に体験していただいて、統計を取りました。予想通りの実験結果がでると、とてもうれしかったですね。

この卒業論文と実験の経験だけでなく、大学で学んだ音楽心理学は、今の仕事に直接繋がって、私を支えてくれています。

■先生

お2人の研究には、音の認知という共通のテーマはありますが、やっている実験はまったく別の内容です。この自由さも心理学の特長かも知れません。心理学は、先ほども話しましたが、大学で初めて学べる学問です。統計を取ったり、プログラミングをしたりという作業も多く、文理の壁を越えた学問と言えます。もっと言えば、人と人之间には必ず心理学のテーマが生まれます。コミュニケーション、仕事、生活、そのどこにでも心理学のテーマはあります。そういったところに興味を持つ人には向いている学問と言えます。

●大学生活について

青山学院大学教育人間科学部の学生さんの特長とはどのようなものでしょうか？

■先生

やはり高校時代文系コースだった学生が多いですね。ですから、最初に統計やプログラミングを学ぶと聞くと驚くようです。

■大学生

数学が苦手だったので、本当に苦労しました。高校時代に克服しておけばよかったです（笑）。

■先生

それらを含め、初めて学ぶことや実験が多いので、きちんと授業で学ばないといけないと思います。2週間に1回は実験があるので、そのレポートも書いて提出します。学生はかなり忙しいですよ。だからか、こつこつ努力するまじめな学生が多いですね。鬼塚さんのように活動的な人も多いです。

■大学生

私はお笑いサークルの裏方をやっていました。下北沢の劇場で、他大学のお笑いサークルと合同でライブを行う機会も多く、都内の大学のお笑いサークルの人たちとは顔なじみです。アルバイトもいろいろやりましたね。

■卒業生

私はアルバイトをしなかったんです。和楽器のサークルに所属して活動をしていた時期もありました。三味線を演奏していましたね。学生時代は大学に来ると、ずっとキャンパス内にいました。表参道にあるので、周囲にたくさんお店はあるんですが、ランチで毎日利用するのは価格が高くて…。

■大学生

私も時々カフェに行きますが、ランチで毎日外食すると、やっぱり出費は痛いですよ。なので私も空き時間はずっと図書館かパソコン室にいます。

■卒業生

私はキャンパスで、夜まで借りてきた本を読んだり、実験のまとめをしたりしていました。青山学院大学は少し高台にあるので、校舎の最上階にある教室から見える景色はとてもキレイです。この青山キャンパスならではのかも知れないですね（笑）。

学生生活について教えてください。

■卒業生

1年生の間は、主に全学共通の教養教育システムの「青山スタンダード科目」を受講しました。2年生の間に、基本的な心理学実験を体験し、3年生から専門を決めて研究を始めることとなります。

■大学生

私は青山スタンダード科目で、都市学や戦国時代の歴史の講義を受講しました。学部を超えて専門分野以外の授業も受講できるので、様々な興味に合わせて授業が選べるのが良かったですね。

■先生

英語もしっかり学ぶこととなります。論文を読んだり、文献を読み解くには英語は必須ですから。



●就職活動、仕事について

卒業生の進路について教えてください。

■先生

人と人との間には必ず心理学のテーマが生まれるとお話したように、心理学は様々な分野で活かすことができます。そのため、卒業生の就職先も多岐にわたっています。

金融関係をはじめ、サービス業や小売、製造業や公的機関に勤める学生も多いですね。営業職や人事車で、学んだことを活かしている学生もたくさんいます。

何度か話題になっていますが、心理学科では統計を取ったり、実験用のプログラムを組んだりという経験を積むことができます。そのため、システムエンジニアの仕事に就く学生もいます。

臨床心理士の受験資格を得るためや、興味を持ったことをより究めて研究者になりたいと大学院に進む学生もいます。

お2人のお仕事について教えてください。

■大学生

私は卒業後デジタルマーケティングの会社で働くことが決まっています。いかに効果的なWEBサイトを制作するか、購買に繋がる広告とは何か、といったことを多くのデータから分析し、お客さまにコンサルティングする仕事を手がけます。そこでは大学で学んだ心理学の知識が存分に活かせるのでは、と期待しています。実際、その会社にも心理学部出身の方がいて、就職面接ではその話題でいろいろなことを話しました。



■卒業生

先ほど「今の仕事に直接繋がっている」とお話しましたが、私は病院の生理機能検査部の耳鼻咽喉科検査室というところに勤務しています。そこで言語聴覚士として、医療従事者の一員となり仕事をしています。人工内耳や補聴器などの機器を使用している方へのリハビリをお手伝いしたり、メンテナンスやフィッティングなどのフォローを行っています。患者さんとお話しをして、どう機器を調整すれば、心地良く使っていただけるかを考えるのです。

教育人間科学部心理学科で音楽心理学を学ぶうちに、言語聴覚士の存在を知りました。この仕事に就こうと決めたのは、大学3年生の夏でした。そこから専門学校を探し、大学卒業後に入学。資格を取得して、今年の春から働き始めました。勉強することは初めてのことも多かったのですが、大学で学んだ心理学の基礎知識がとても役に立ちました。

大学や専門学校で学んだ知識をもとに、患者さんと話すことでその心理を読み取り、より良いアドバイスができるように心がけています。「前より良く聞こえるようになった」と言ってもらえると本当にうれしいですね。

●5年後に向けて

5年後に皆さんは何をしているでしょうか？

■大学生

私が就職したのは、設立されたばかりの会社です。5年で大きく成長できるように、大学で学んだ知識を活かして活躍したいですね。

WEBのマーケティングは、今後より重要性を増すはずですが、5年後には、いまよりもっと身の回り

のモノがデジタル化されていくことでしょう。そして多くの外国人が日本を訪れているでしょう。より様々な数字やデータが動く時代となっていると思います。そこでいかに自分たちの会社が活躍し、日本を牽引していくことができるのか、それも楽しみです。

■卒業生

いまの仕事では、論文を勉強したり学会に参加する機会がたくさんあります。まだまだ学ぶことが多い私にとっては、刺激を受けながら、技術を身に付けることができる良い環境だと感じています。そこで経験を積み、自分でも努力して知識を身に付け、より良い臨床ができるようになりたいと思っています。

■先生

私はいま手がけていることから派生し、また新たなことに興味が向いているんです。特に関心があるのは、日本のことです。日本人は音に敏感。その感性から生まれた歌謡曲やJ-POPなども研究してみたいと思っています。

●高校生へのアドバイス

高校生へのメッセージをお願いします。

■大学生

ずっと心理学が学びたいと思っていましたが、もっともっと心理学について調べて、準備しておけば、入学してからの統計の勉強などの苦労も減ったのかなと思います。心理学に興味がある方は、ぜひ数学もがんばってください。

あとは興味があることには、もっと貪欲になっておけば良かったと思います。やったことは必ず後から知識や経験として役に立ちます。私は茶道を習っていたり、宇宙に興味があったのですが、今からもう一度真剣にやる時間はありません。後悔のないように、ぜひがんばってほしいです。



■卒業生

高校時代って、勉強の目的が「テストで高い点数を取る」ことになりがちで、そのためにやり方が固まってしまうこともあると思います。でも、それだと「何が勉強したいか」という自分の気持ちが後回しになってしまう。「私はこれが好き。だからこの勉強をする」ということが見つかっていれば、テストのためだけではなく、いろいろな勉強をしてください。将来、大学に入ってから、社会に出ても

勉強したことは役に立つと思います。それに、「がんばればやりたいことができる大学に合格できる」と思うとモチベーションにもなりますよ。

入試科目の勉強も大切ですが、それ以外にも楽しさを見つけてほしいですね。自分のやりたいことを見つけ、そのための勉強を楽しんでください。

■先生

そうですね。勉強を「受験のため」と思うと大変だと思います。どんな科目も、受験の先、将来の役に立つものばかりです。それを信じてがんばってほしいですね。

心理学を学ぼうという方は、生物をしっかり学んでください。文系だと生物の授業がないケースもあるでしょう。しかし高校の生物の授業は、脳の働きや感覚について学ぶ、心理学の基礎となります。時間のある間に、ぜひトライしてください。それと、数学の基礎力も大切。統計やプログラミングをする際のベースとなる力です。英語も論文を読み解くのに大切です。そう、どんな勉強も将来に繋がっているんです。

そして心理学は、全ての学問に繋がっています。どの学問でも人が関われば、そこに心理学が生ま

れます。そのことに興味を持った方は、ぜひ心理学にチャレンジしてほしいですね。

もし心理学に興味を持っているのであれば、オススメしたいのが「世界文学全集」です。現実の世界で生きるということは、選択の連続です。そして選べる選択肢には限りがあり、生きられる人生は一つです。でも小説の中には、様々な人の人生が描かれています。世界中を旅することもできます。その時、人は何を考えているのか。相手はどう思っているのか。そんなことを考えながら小説を読めば、心理学の基礎が経験できるのです。他人の人生を経験しているんだと思って楽しんでください。

●インタビューに答えていただいた方々●



■先生

重野純先生

青山学院大学教育人間科学部 教授

東京都立日比谷高等学校出身。東京大学文学部心理学専修課程卒業、同大学大学院人文科学研究科心理学専門課程修士課程修了および博士課程単位修得退学。文学博士。

職歴：日本学術振興会奨励研究員、明治学院大学一般教育部非常勤講師、北里大学教養部助教授、東京都老人総合研究所客員研究員ほか

「音の世界の心理学」（単独）、『言語とこころ』（重野純編）、「聴覚・ことば」（単独）など著書多数。



■卒業生

古座みち子さん

千葉県の大学病院勤務（2015年度取材当時）

私立仙台育英学園秀光中等教育学校出身。青山学院大学教育人間科学部心理学科卒業。大学卒業後、言語聴覚士の国家資格を取得。現在は、生理機能検査部の耳鼻咽喉科検査室で言語聴覚士として医療に従事した仕事を手がける。



■大学生

鬼塚めいさん

青山学院大学教育人間科学部心理学科4年生（2015年度取材当時）

私立八代白百合学園高等学校出身。大学ではお笑いサークルに所属し、ライブの運営や音響・照明などを担当。卒業後はデジタルマーケティングの会社に就職予定。